

平成 26 年度 事業 計画 書

平成 26 年 3 月 28 日

施設名	新潟市バイオリサーチセンター		
団体名	NBRP 共同企業体 体表団体 新潟バイオリサーチパーク株式会社		
団体所在地	新潟市秋葉区東島316番地2		
代表者名	代表取締役社長 石黒 正路	設立年月日	平成 15 年 4 月 16 日
電話番号	(0250)25-1196		
FAX番号	(0250)25-1266		
Eメール	webmaster@nbrp.co.jp		

新潟市バイオリサーチセンター運営方針

「新潟市バイオリサーチセンター」は、新潟市が進める「新潟バイオリサーチパーク構想」の展開エリア内の共同研究施設であり、新潟における主要産業である食品関連の事業を中心として、21世紀の産業技術の柱のひとつである「バイオテクノロジー」を軸に、関連分野における地域産業の活性化を目指して、新規産業の創出や産業技術の高度化を図ります。

当構想は、新潟薬科大学との連携を中核として、バイオ・食品関連産業と共同して大学の高度分析技術や評価技術を用いて商品の評価を行うとともに新技術を応用した商品開発を行い、その有効利用を産・学・官連携で進めていくというものです。特に、平成25年には新潟薬科大学との包括的連携協定を締結し、より充実した活動を展開しています。

地域産業の振興、発展に寄与するために生命・健康科学分野の知的集積を図り、食品分野を中心として総合的なバイオ研究の拠点形成を目指します。

今年度は大学との技術連携を進めて食品分野における最新の情報の提供とともに食品の付加価値評価や機能性研究を通して食品の高付加価値化を目標に新潟県の健康産業への貢献を目指します。また、委託研究や共同研究そして研修等を通して、人材育成の場としての当施設の積極的な活用を推進していきます。具体的には以下に示す事業計画を進めていく予定です。

I. 食品の付加価値化

新潟薬科大学および新潟市と協力して食品の高付加価値化を目指した評価システムをバイオリサーチセンター内に構築します。

II. 食品の安全性評価

新潟薬科大学と協力して食品の安全性評価として企業内に HACCP の導入を進めるためのコンサルタント事業を展開します。

III. 食品機能情報の整備

新潟薬科大学が展開する微量栄養素に関する翻訳事業を支援し、会員へのサービスを展開しま

す。また、この情報を利用して消費者への有効な情報提供を行えるシステム構築を行います。

IV. 食品に関する研修業務

新潟薬科大学やその他の研究機関の協力を得て食品の安全性や防御に関する研修を展開し、会員サービスとともに食品企業を支援します。

V. 食品の治験活動

治験機関との密な連携によって、食品企業から委託された食品の安全性と機能の効率的な治験評価を行います。

職員の配置(職種、人数、雇用形態、資格、技能、経験など)

- ・センター長・・・(研究者1名)
- ・事務職(会社業務との兼務)・・・(正社員2名)

研修計画

1. 消防計画書及び地震マニュアルに基づき、社員及び施設利用者が守るべき事項や火災発生時及び地震発生時など、緊急時の対応について十分理解をしてもらうよう訓練を行います。
また、火災発生時などどのような対応を取ることが安全なのか、消防訓練終了後、業者の方から指導いただく時間を設け、利用者の方々と考える時間をつくりたいと思います。
2. 施設管理における理解度を高めるため、管理マニュアルを作成し、特別な点検の必要のない業務、また点検時期や点検内容が法で定められているものなど、管理及び運営に必要な事項について研修を行います。
3. 個人情報保護制度の意義や目的などについて研修を行い周知徹底を図ります。
4. 苦情(クレーム)に対する対応方法や交渉方針などを検討し、適切な対応ができるように研修を行います。
5. 施設利用者や訪問されたお客様への対応方法など接遇マナーを身につけるために、接遇研修を行います。

利用者確保の対策

共同研究及び委託研究体制の構築、更には産官学連携事業を積極的に推進していきます。現在の入居率 100%を維持し、現在の利用者の安全性や快適性などの面において、利用者の研究業務をサポートしていきたいと考えております。また、企業及び研究機関のニーズに合った最適な研究体制を提供するため、今年度も下記の項目に従って指定管理者の責を果たしたいと考えております。

1. 新潟薬科大学産官学連携推進センターと協力しながら、新潟市バイオリサーチセンターを地元産業の「食」等に関する調査・発掘の活動拠点として、引き続き継続・推進していきます。また、大学等研究者・大学研究室の研究成果・研究課題等の情報を地元企業に発信していくと共

に、大学等研究者に対しても産業界の情報を提供していきます。

2. 機能的食品・食品分析・食品安全に関する研究活動の情報発信役となります。
3. 技術相談窓口を設置し、企業の課題解決に向けた適切なアドバイスの他、具体的テーマについて技術指導・コンサルティングを行い、コンソーシアム(研究共同体)形成に結びつけていきます。
4. センターのホームページを改正しながら、施設のPR活動を実施していきます。
5. 利用者アンケートを実施し、利用者及び関係者の意見や要望を聞きながらセンター運営に反映させていきます。

個人情報の保護

1. 「新潟市バイオリサーチセンターの管理に関する協定書」「個人情報の保護に関する取り扱い仕様書」に基づき、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないよう個人情報を適正に取り扱います。
2. 外部から侵入されてパソコンを持ち出された場合に備え、ログイン時にはパスワードを入力するよう設定します。
3. センター利用者の情報に関しては、本人の了解なしに教えることはできない旨を伝え、こちらから連絡できるように先方の連絡先を確認し本人に伝えるよう周知させます。

緊急時対策

「新潟市バイオリサーチセンターの管理に関する協定書」に基づき、次の対策を実施します。

1. 事故や災害等の緊急事態が発生した場合に対応できるよう、防災・地震マニュアルに基づき、年一回訓練を実施します。また施設利用者との情報交換会を開き、防災・危機管理の意識向上を目指します。
2. 大規模な停電等が発生した場合、各研究室の冷蔵庫等に保管されている貴重なバイオ関連物質などの損失が最小限にとどまるよう、発動発電機を設置し、そのマニュアル化を図ります。
3. 各種防災関連マニュアル(地震対策マニュアル、ガス異常発生時における緊急対処フローチャート)に防災関連機関等の緊急連絡先を明確化し、迅速な情報伝達と二次災害等が発生しないように努めます。
4. 新潟市バイオリサーチセンター消防計画を作成し、防火管理についての必要事項を定め、火災、地震、その他災害の予防と人命の安全、被害の軽減を図ります。
5. 事故や災害等の緊急事態が発生した場合に対応できるように、防災・地震マニュアルに基づき、年1回訓練を実施します。また、緊急時の対応について十分理解をしてもらえるよう施設利用者とのミーティングを行います。
6. 備品・ロッカー・照明器具等の転倒落下防止対策及び耐震補強を行うよう推進します。

要望・苦情対応

1. 利用者及び市民の意見や要望を把握するため、利用者アンケートを実施し、意見や要望に対し、適切な対応と迅速な解決をめざし、利用者の理解と満足感を高め、対応可能なものはできるだけ速やかに施設運営に反映させるように努めます。
2. 苦情対応は、十分話を聞くなど丁寧に対応し、社内及び新潟市への適切な情報伝達が出来るよう努めます。
3. 地元住民との対話、意見交換に努めます。地元町内会に参画し、町内会が企画する各種イベントには積極的に参加し、地元との交流を深めます。

自主事業

- (1) 大学、高等専門学校、短期大学、大学共同利用機関及び国等の試験研究機関(以下、大学等という)の特許権、著作権等の知的財産権に関する情報の収集・分析・評価・提供業務、権利の取得、実施契約の締結、維持、管理業務
- (2) 大学等から大学等以外への技術移転に関する調査研究、コンサルティング、斡旋、仲介業務
- (3) 大学等と大学等以外とのバイオテクノロジーに係る共同開発・その他研究連携に必要な斡旋、仲介等の業務
- (4) バイオテクノロジー及び食品安全性に係る技術相談、指導コンサルティング業務
- (5) 微量分析・測定コンサルティング業務
- (6) 上記事業に係る機関紙の発行、出版物の出版・販売、講演会・シンポジウム・セミナー等の開催に関する業務
- (7) バイオテクノロジーに関する人材育成のための教育、養成
- (8) バイオテクノロジー関連商品開発、企画、立案並びに製造・販売
- (9) バイオテクノロジーに関する分析・実験機器及び実験設備・薬品の販売